

ランチタイムニッポン

岐阜市立岐阜中央中学校 3年

篠田 ひより

皆さん給食は好きですか?もしくは学生だった頃好きでしたか?私は美味しい給食が大好きです。しかし、全国の小中学校では毎日たくさんの残飯が出てしまっています。世の中では「食品ロス削減」という言葉もよく聞かれる中、私達小中学生にとって、もっとも身近な給食という舞台ではそれができていません。もったいないと思うと共に、「どうしてこのようなことが起こってしまうのだろう」と考えるようになりました。残飯をできるだけ少なくしたい。ではまず、なぜ私達は給食を残してしまうのでしょうか?私は主に3つの理由があると考えます。

1つ目は、体型を気にして、食べていけない人がいることです。確かに体型に気をつけたい気持ちは私もよくわかります。しかし、まったく食べない選択はして欲しくありません。これは私だけでの考えでなく、社会でルッキズムに対して違和感を感じる人も増えてきていることから分かります。見た目重視で評価されがちなアイドルでも、最近ではダンスや歌唱力を純粋に評価して選ばれているグループも出てきています。いい流れだと思います。大切なのは社会全体で「痩せていることがいいこと」という認識を変えていく事です。

2つ目は元々の量についてです。生徒視点から見ると量が多いように感じています。詳しく述べると米の量が極端に多いように感じます。一方でおかずはあまり減らされてはいません。ニュースで米不足、米価格の高騰などと連日放送されているのに、です。しかし、米をしっかりと食べないと、集中力の低下なども起きてしまいます。では、どうしたら良いのでしょうか。私は保育園であるような補食を提案します。ここで学校の2、3時間目の授業の時間をのぞいてみましょう。お腹の音を隠すため、椅子を引いたりしていますね。もし、このような時間に小さなおにぎりなどの補食をとり、その分給食の米を減らせれば少しは問題が解決できるのではないのでしょうか?しかしこれは現段階で直ぐに取り掛かれる改善策でもありません。配るための人、食器、費用や時間さまざまな問題が出てきます。そのため、これは未来の私達への宿題にし、大人の皆さんの協力も必要な事だと思います。

最後の3つ目の理由は、嫌いなものを残してしまう人が多い事です。どうやら、アレルギーでもないのに家庭でも「嫌いなら食べなくてもいい」としている家庭が多いようです。「これは嫌いだから食べない」は「この教科は好きじゃないからやらない」「あの子とは気が合わなそうだから話さない」に繋がってしまわないのでしょうか?チャレンジすべきなのです。私も嫌いな食べ物があります。でもその食材も定期的に食べてみています。理由は、もしかしたら美味しいと感じるようになっていくかも、と思うからです。私は小学生の頃、この「味覚の変化」という自由研究を行い、20代から80代の計60人ほどの人にアンケートをとりました。その中で、例えばわさびは83%の人が「嫌い」から「好き」になったそうです。「無理して食べているうちに好きになった」と多くの人が回答してくれました。皆さんはどうですか?以前美味しくないと思っていたものが突然美味しく感じた経験はありませんか?皆さん、ぜひ食べ続けてみてください。ある日急に大好物になるかもしれませんよ?

このように社会、大人、学生、全員が協力し合えば残飯を減らす事は不可能な事ではありません。そして、それは単に食べ物を大切にすることだけではなく、自分自身の成長にもつながる大切な一歩になってくるのではないのでしょうか?

というようなまじめなことも言ってみました。私は「給食=食べなくてはならない苦痛の時間」にはしたくありません。そこで、少しでも楽しい時間になるよう、岐阜中央中学校で「ランチタイムニッポン」という番組を作り今も放送しています。給食に真摯な態度で向き合う「ランチタイムニッポン」パーソナリティの篠田 ひよりでした。See you next time! バイ!